平成26年度普及活動成果集

まちとむらをむすぶ
普及指導センターのしごと

福岡県八幡農林事務所　北九州普及指導センター

平成27年3月

表紙写真のタイトル
（部門）

びわ生産塾 （果樹）	出荷を待つ シクラメン （花き）	小倉地域の伝統野菜 大葉春菊 （野菜）
パソコン簿記 研修会 （地域）	若松潮風®キャベツ （野菜）	麦採種ほほ場審査 （水田）
共同作業所での びわの出荷調製 （果樹）	大豆部会設立総会 （水田）	女性起業 PR 支援 （地域）

はじめに

平成26年度は、夏季の長雨・日照不足により、水稲や夏果実で収量・品質が低下し、キャベツなど露地野菜で定植が遅れました。しかし、生産者の方々の的確な栽培管理により、多大の被害を生じるものではありませんでした。

こうした中、普及指導センターは、「食と緑を育む都市型農業の確立」をめざして、関係機関と連携を図りながら、課題解決に取り組んできました。

重点課題の「若松ブランド野菜の生産基盤強化」では、ブランド力を強化するため、安定的な生産や品質向上を支援しました。またＧＡＰの取組について、キャベツ生産者全員の合意を得るとともに、集出荷場においても推進しました。

「遠賀・中間地域園芸産地の活性化」では、イチゴで稼働したパッケージ共同作業所について、ビワ、イチジクの産地維持・発展を目指して、ビワ、イチジクでの利用を推進しました。

また、大豆収量を向上するため大豆栽培マニュアルを策定、ビワ産地の担い手を確保するため開講したビワ生産塾の支援など、この成果集は、本年度の普及活動で成果の上がった事例や地域での新しい取り組み等をわかりやすく取りまとめたものです。農業者の皆さんや関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、職員一同、一丸となって地域の課題解決に取り組んでいく所存でございますので、引き続き普及活動のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成２７年３月

八幡農林事務所北九州普及指導センター
センター長　　上野　浩

目　次

重点課題成果

都市近郊野菜産地の挑戦 ・・・・・・・ 1

遠賀・中間地域園芸産地の活性化 ・・・・・・・ 3

一般課題成果

新規就農者の定着を目指して ・・・・・・・ 5

私らしい６次産業化にチャレンジしよう！ ・・・・・・・ 6

排水・雑草対策を徹底！大豆づくりで高収量を目指そう ・・・・・・・ 7

集落営農組織の法人化を加速化！ ・・・・・・・ 8

アスパラガスの安定生産・収量向上を目指して！ ・・・・・・・ 9

都市近郊野菜産地の振興 ・・・・・・・ 10

びわ産地の担い手確保に向けて ・・・・・・・ 11

シクラメン底面給水栽培技術の確立に向けて ・・・・・・・ 12

表彰事業

「(一社) 全国農業改良普及支援協会会長賞」を受賞 ・・・・・・・ 13

展示ほ成果

都市近郊野菜産地の挑戦
～若松ブランド野菜の生産基盤強化～

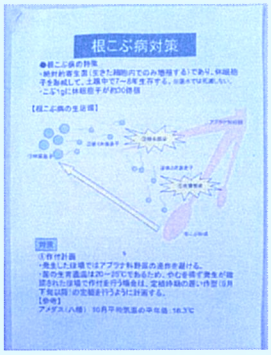
１「若松潮風®キャベツ」の生産対策

ＪＡ北九若松そさい部会キャベツ班（36 名、約 90ha）は、「若松潮風®キャベツ」のブランド力を強化するため、今年度から市内産ブランド牡蠣「豊前海一粒かき」の殻を活用した有機石灰を全戸で施用し、北九州市が目指す資源循環型社会の実現に向けた取り組みを実施しました。

今年度は、８月からの長雨の影響で定植作業が遅れ、定植適期を過ぎた苗で病害の発生が懸念されました。そこで普及指導センターは早急に技術対策資料を作成、育苗ハウスを巡回し対策の徹底を行いました。

また、地域内に設置したフェロモントラップ（計５ヶ所）から予測される害虫発生に関する情報、「根こぶ病対策マニュアル」を適宜作成、配布し、高品質な「若松潮風®キャベツ」が出荷されました。

牡蠣殻石灰の散布



根こぶ病対策マニュアル

２　「若松水切りトマト」のブランド化

若松区では、20 年ほど前から、かん水量を減らして糖度を高めた「若松水切りトマト」が 13 戸(約 440a)で栽培されています。地元市場の評価は高いものの、個人販売が主体であったため、共同販売の機運を高め、ＪＡの販売網を活用した県外への共同販売の取り組みが始まりました。

また、出荷量や品質が安定するよう、栽培研修会を開催しました。その結果、安定した収量・品質に向けて、適切な温度・かん水管理を実践していくこととなりました。

３　学校給食用野菜の取り組み（タマネギ、バレイショ、ダイコン）

ＪＡ北九タマネギ・バレイショ部会（H25 年度設立）に対し、普及指導センターは生産面の支援を行いました。タマネギでは、品種の統一、栽培指針や防除指針の作成を行い、生産性向上に取り組んだ結果、栽培面積が増加しました。

また、ダイコンについても生産性向上を目指し、栽培指針及び防除指針を改

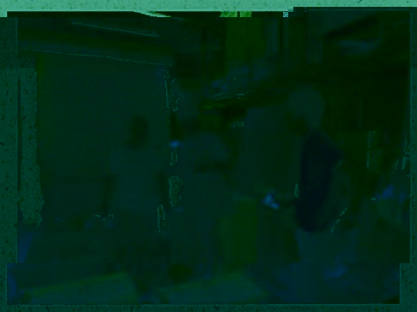
訂し、品種試験を行いました。

４　ＧＡＰの取り組み　（ＪＡ北九若松そさい部会キャベツ班）

本年度はキャベツ班（35 名）に GAP の取組を推進しました。まず、２年前からキャベツ班青年部（８名）が取り組んでいる８項目の申し合わせ事項について、班全員で取り組む合意形成を図りました。次に、ファームレンジャーと称して関係機関で全戸巡回を行い、申し合わせ事項の達成状況を３段階で評価し、取りまとめ後、各項目のリスクについて詳しい解説を付し、一層の取組徹底を促しました。

また、集出荷場の衛生面や安全面のリスクについて、関係機関で検討を重ね、場内禁煙の徹底や標語掲示を行い、産地パンフレットにもＧＡＰの取り組みを掲載しました。

その結果、ＧＡＰの取り組みが「若松潮風®キャベツ」のブランド力強化につながるという認識が生産者に浸透し始めました。



農薬の適正保管等の巡回指導

集出荷場に掲示された標語

遠賀・中間地域園芸産地の活性化
～担い手の育成と生産力向上をめざして～

1　背景

遠賀・中間地域は米が経営の中心の地域で、野菜や果樹等の園芸品目は品目は多いものの産地規模が小さく、多くの生産部会は生産者数が減少しています。栽培面積、販売金額も減少し続けており、部会の維持が難しくなっている品目が出てきています。その一方で、新規就農の相談者は比較的多く、施設野菜への就農希望が増えています。

年度	H23	H24	H25	H26
相談件数	9	8	11	11
就農者数	8	6	4	2

※ 就農相談件数は中間市及び遠賀郡の在住者または就農希望者
※ H26の相談件数は1月末現在、同就農者数は9月末調査時点

就農者数は年々減少していますが、施設野菜で毎年１～２名の新規参入者が入ってきています。こうした方々は親等から技術を習得することができないため、技術向上や経営改善などで特に重点的な指導が求められていました。

2　就農者確保の取り組み

特に園芸が盛んな岡垣町では、以前から「岡垣町認定・志向農業者連絡会」の支援を得て農地情報、空きハウス情報の提供、ビニル張りなどの人的支援等

議会(JA事務局)や担い手産地育成協議会(普及指導センター事務局)でこれらの取り組みを紹介し、啓発を行ってきました。

今後はこの体制を維持しつつ、地域全体で連携していくことを目標に活動していく予定です。

3 ビワの生産力向上の取り組み

岡垣町の「高倉びわ」は100年以上の歴史を持っていますが、近年生産者の高齢化により産地の縮小が進んでいます。そこで、本年度から町の事業で生産者の掘り起こしを目的とした「高倉びわ生産塾」を開催するなど、関係機関を上げて取り組みを行っており、栽培管理に力を入れてもらうためのパッケージ共同作業所による出荷調製支援や生産力向上研修会の開催、生産力向上戦略の策定等に取り組んできました。

パッケージ共同作業所でのビワの出荷調製

4 パッケージ共同作業所の取り組み

平成24年度からイチゴでのパッケージ共同作業所が稼働を始めました。新規就農者が生産管理に専念し、ある程度技術が確立した若手に対しては規模拡大のきっかけになるよう利用を促進してきたことで、順調に取扱数量が伸びてきています。

また昨年から、共同作業所の年間稼働による雇用維持と果樹農家の出荷調製労力軽減を目的に岡垣町特産であるビワとイチジクについて作業時間調査等を行っており、本年度、ビワで稼働を開始するとともに、イチジクでも試行的な運用を開始し、年間稼働構想の実現に一歩近づきました。

新規就農者のイチゴ収穫作業

新規就農者の定着を目指して
～　研修会や個別巡回で支援　～

普及指導センターでは、就農希望者の相談業務の他、営農経験の浅い新規就農者の定着に向けて、部門ごとの勉強会、情報交換や仲間づくりを目的とした研修会・交流会及び就農定着に向けた個別巡回指導などを行っています。

本年度の主な取組みは以下のとおりです。

１　コース別営農基礎講座の開催（周年）

水田農業、野菜、花き、農業経営の部門ごとに営農講座を開催しました。農業経営部門では、複式簿記の基礎やパソコン簿記、経営分析等について講義や演習を行い、その他の部門では現地で栽培管理等の講義を行いました。

２　全体研修会の開催（６月、８月、２月）

就農５年未満の農業者を対象に、栽培の基礎（土づくり、病害虫）に関する研修会を開催し、普及指導員がわかりやすく説明しました。研修の中では、農業者が持ち込んだ土壌の分析や、肥料の展示、農薬散布の際の防除衣の着用実演などを行ったことで、参加者は理解が深まりました。

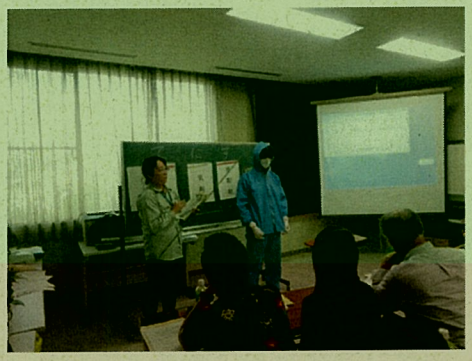
また、専門家による講演会を実施し、新規就農者の心構え、これからの農業情勢を見据えたビジョンの構築などに対する助言を受けました。講演会終了後は、新規就農者同士の情報交換も行い、仲間づくりの場となりました。

３　就農定着に向けた個別巡回指導（周年）

青年就農給付金の受給者を含む新規就農者の生産技術及び経営管理能力の向上を目指して、普及指導センター、市町、ＪＡ担当者が連携して巡回指導を行い、就農後のフォローアップに積極的に取り組みました。

普及指導センターでは、今後とも関係機関と連携して新規就農者など担い手の確保・定着に向けた取り組みを進めていきます。

土づくり研修会の風景



病害虫研修会での防除衣の着用実演

私らしい６次産業化にチャレンジしよう！
～女性の視点を活かした起業活動支援～

普及指導センターでは、管内農産加工の新商品開発に取り組みたい女性農業者を対象に、県事業を活用して、専門家による商品開発や販路拡大に向けた支援活動を行いました。

今年度、法人Ｃ組織（下記表参照）は、食品加工コンサルタントからの３回の指導を受けました。ジャムづくりでは、酸味、ゲル化、充填・脱気などの工程を、実際に実習しながら留意点などの指導を受け、今後の商品開発の参考になったと思われます。

また、11 月に行われた「女性農業者の大活躍大会」（春日市クローバーホール）では、女性農業者が自慢の商品の展示・試食を行い、多くの県民へ PR しました。
普及センターは、今後とも、６次産業化を目指す女性農業者を支援します。

事業説明会

県公報番組ＴＶ取材

平成 26 年度　管内女性起業の県事業への取組一覧

	市町区名	活動内容	県事業名
個人Ａ	北九州市 若松区	・ブルーベリーを使った新商品開発支援	起業計画策定 支援事業
個人Ｂ	北九州市 若松区	・トマトを使った新商品開発支援	起業計画策定 支援事業
法人Ｃ	岡垣町	・食品加工コンサルタントによる加工技術の指導 ・地元米を使った新商品開発に向けた支援	起業計画策定 支援事業 女性農業者能力 発揮事業

排水・雑草対策を徹底！大豆づくりで高収量を目指そう
～遠賀・中間地区大豆栽培の取組～

遠賀・中間地区は排水不良のほ場が多く、大豆の収量向上が課題となっています。そこで、排水対策を中心とした新たな取組を関係機関と連携し企画・提案し、農業者の生産意欲の向上につなげました。

1 普及指導センターが中心となって企画した取組

・排水対策を中心とした大豆栽培マニュアルを作成しました。また、収量向上のモデル地区を設定し、化学性、物理性の土壌診断を実施し、排水対策の徹底を図りました。

・アサガオ対策の除草剤展示ほを設置し、雑草対策に取り組みました。

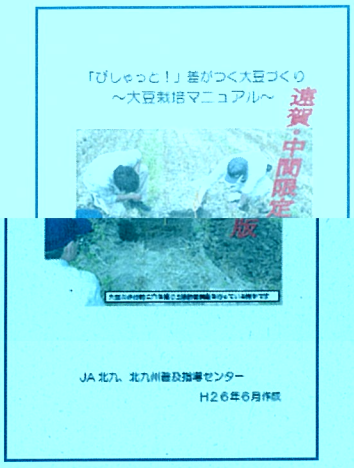
・携帯電話のショートメールを活用し、気象情報、播種や病害虫の情報を生産者に伝え、情報提供の迅速化を図りました。

2 生産体制の強化の取組

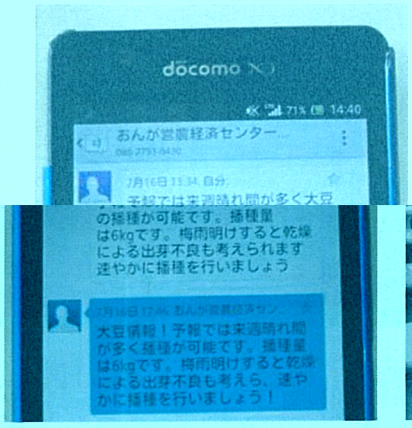
北九州農協大豆部会が設立されました。部会の取組として、試験場への視察研修会の開催を企画し、また、現地巡回講習会を開催することで生産者の収量向上の取組を強化しました。

本年は７，８月の降雨が多かったため、播種前から生育中まで排水不良の時期が長く、生育量の確保は困難でしたが、上記の取組の結果、昨年と比較して２割程度収量が上がる見込みです。

今後も普及指導センターでは、生産者への技術支援を通じて高収量の大豆生産を目指していきます。



大豆栽培マニュアル



ショートメールの情報伝達

大豆部会設立総会

集落営農組織の法人化を加速化！
～遠賀・中間地区集落営農組織への法人化支援～

遠賀・中間地区では大豆・麦の生産を中心とした集落営農組織が 11 組織あります。この内、２組織が法人化を行い、残りの９組織が現在法人化を目指して検討しています。このような中、普及指導センターは関係機関と連携して法人化の取り組みの加速化を図りました。

１　北九州地域集落営農組織連絡協議会の研修会を開催

８月に９組織を対象に田村税理士、（株）経営支援センターの神崎氏を講師として招き、「法人化の手法について」講演を行いました。農業施策のポイント、法人の現状、法人設立など幅広い視点で研修が行われ、法人化の機運が高まりました。

２　法人化の意欲のある組織を中心に研修会を開催

９月から 11 月にかけて、集落営農組織の総会などを活用し、法人化の意向のある組織を[redacted]

３　法人化意向のある組織を個別訪問、研修会を開催

[redacted]

[redacted]の法人化を支援します。

田村講師による法人化研修会

農事組合法人の先進地を視察

アスパラガスの安定生産・収量向上を目指して！
～新規品目の生産支援～

現在、高鍋・中郷地区及び新富地区で計４戸がアスパラガスを栽培しています。その内２戸の生産者は、平成 25 年春から作付けを開始したばかりです。

そのため、関係機関と協力して現地講習会等を実施し、生産者の技術向上に取り組みました。

１　栽培講習会の開催

新規生産者の技術力向上と生産者同士の交流を深めるため、定期的に講習会を実施しました。他の生産者のハウスを見たことがない人が多かったため、お互いのハウスを見る機会を設けました。さらに、栽培年数の長い生産者のスキルアップも図るため、他産地の優良生産者ほ場への視察も行いました。

２　病害虫対策の強化

アスパラガスは、病害虫の発生期間が長いこと、茎葉が繁茂しており発生してからの防除では効果が低下することから、定期的に予防防除することが重要となります。そこで、新規就農や新規参入でアスパラガス栽培を始めた管内生産者に対して、薬剤を選択する際のポイント等を示し、効果的な薬剤防除の実施を推進しました。

３　土壌診断による適正施肥の指導

堆肥・肥料の投入量が多いアスパラガス栽培においては、土壌中の一部の肥料成分が過剰になり生育に影響します。そのため、各生産者ほ場で土壌分析・診断を実施し、ほ場の状態にあった施肥管理の指導を行いました。

今後、栽培技術の改善による収量向上に取り組むことで、アスパラガスが新規品目として地域に定着するとともに新たな栽培者も増加し、アスパラガスの産地化が進むことが大きく期待されます。

他産地への視察

都市近郊野菜産地の振興
～小倉野菜産地戦略が始動～

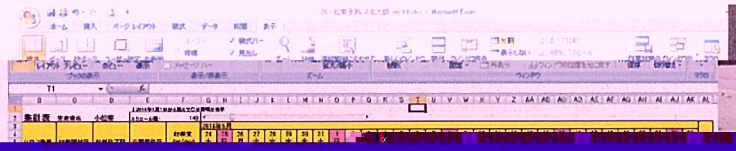
1　販売力の強化に向けて

小倉野菜産地は都市近郊に広がっており、限られた施設面積で軟弱野菜を中心に少量多品目経営を行ってきました。近年、生産者の減少に伴い、産地全体の出荷量の減少が続き、市場競争力の低下が課題となっています。

そのため、計画的な安定出荷を図り市場競争力を高めるために、まず小松菜で事前の出荷量把握を徹底することにしました。さらに、より早い段階での把握を目指し、播種実績から出荷時期や出荷量を推定する仕組みを確立しました。

また、かつお菜では市民や市場関係者を対象とした試食宣伝を実施し、地元での認知度が向上しました。

これらの取組みを通じて、個ではなく組織として販売力の強化に取り組む機運が高まってきました。



出荷時期予測シート

かつお菜の試食宣伝

2　生産基盤の確立に向けて

家族経営主体のため、高齢化による労働力不足が産地課題となっていますが、シルバー人材等、外部の労働力を活用する事例が生まれました。その結果、施

びわ産地の担い手確保に向けて
～びわ生産塾開講～

ＪＡ北九びわ部会は、生産者の高齢化に伴い、生産者および栽培面積が減少しています。そこで、びわ産地の維持・再生を図るために、びわ部会、岡垣町、ＪＡ北九、普及指導センターで構成する「高倉びわ活性化協議会」を平成 25 年度に設立しました。その中でいかに担い手を確保するか検討し、農業者だけでなく一般町民からも生産者を育成しようと、びわ生産塾を開催することとしました。

本年５月、岡垣町及びＪＡ北九の広報誌にびわ生産塾生の募集記事を掲載したところ、６名の応募がありました。定年退職をされた 60 代の方が主体で、びわを栽培するのは初めての人ばかりです。

びわ生産塾は９月２日に開講式を行い、９月 17 日に塾生は草刈機の使い方、びわの整枝法を学び、10 月に摘蕾方法を学びました。

この生産塾は、今後、病害虫対策、施肥、摘果、袋掛け、収穫等の管理作業を１年かけて研修を行います。そして卒業後は、高齢化等で管理ができなくなったびわ園を借り受けてもらい、びわの担い手となってもらうことを最終目的としています。

普及指導センターとしては、高倉びわ活性化協議会を中心として、第１回目の塾生のその後の技術支援、第２回目の塾生の研修会開催等の支援を行っていき、びわ産地の活性化を図っていきます。

びわ生産塾開講式

びわ園での研修

シクラメン底面給水栽培技術の確立に向けて
～鉢物栽培における個別農家の技術・経営改善～

北九州地域の鉢物は、シクラメンが最も多く生産されており、生産者は７名、栽培面積１ha で、多様な品種が生産されています。

しかし、産地間競争の激化、生産途中の株の萎れ及び長時間の灌水作業による重労働等の課題がありました。このため、底面給水栽培技術の導入による安定生産と個別農家の技術及び経営管理支援に取り組みました。

1　シクラメン生産の省力化

底面給水栽培技術は、給水ウィックと呼ばれる不織布のヒモを使って、鉢の底から給水する方法で、かん水作業を大幅に削減させることができます。このことにより従来11月から始めていた底面給水栽培を８月から開始することが可能になりました。

以前は、シクラメンで底面給水栽培を開始した後に、一部で株枯れが発

[illegible]

底給水栽培を導入し、生産安定化しました。

2　新たな品目導入による経営改善

[illegible]年前、生産コストに対する販売価格の変化に対応するため、シクラメンと組み合わせる新たな品目に導入を進めました。[illegible]ポインセチア、ミニバラ等の品目に導入されました。

[illegible]は、早期収穫のための手法を検討し、新規導入品目の栽培技術支援や育種法等の情報提供等を行いました。

今後は、新規品目の安定栽培に向けた栽培管理と導入による、更なるブランド化及び個別経営支援を行います。

「(一社) 全国農業改良普及支援協会会長賞」を受賞
～第２回農業普及指導活動高度化研究全国大会にて事例発表～

11 月 25、26 日、日本消防会館（東京都）において「第２回農業普及活動高度化全国研究大会」（主催：全国農業改良普及職員協議会、全国農業改良主務課長協議会、一般社団法人　全国農業改良普及支援協会）が開催され、全国の普及指導員等約 1,300 人が参加しました。

本研究大会は、農業普及活動の創意工夫・改善や独創性に富む優良事例発表等を通じて農業普及活動の高度化の研究を行いながら、農業普及活動の充実・強化を図るとともに日本農業・農村の発展に寄与していくために開催されるものです。

今回、若松キャベツ産地に対する当センターの普及活動をまとめた「競争力あるキャベツ産地の確立支援～改革を新された若手農業者との挑戦～」と題し

展示ほ・実証ほ一覧

品目名	種別	展示ほ名	設置場所	展示の概要
大麦	品種試験	奨励品種決定試験	中間市	新系統の現地適応性試験

福岡県行政資料			
分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703305	26	0001

福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター
〒807-0831
福岡県北九州市八幡西区則松3－7－1（八幡総合庁舎　2階）
TEL 093－601－8855
FAX 093－601－8869
URL：http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707.html